

会告

■次回開催

平成 21 年 第 2 回研究会

平成 21 年 9 月 5 日 (土) 13:00 - 17:00

会場：東京電機大学神田キャンパスお茶の水アネックス
6 階大会議室

発表者：古川聖 (東京芸大), 小坂直敏 (東京電機大)

■運営体制

当学会の事務局と運営委員が以下の通り決まりましたのでお知らせします。

事務局

会長：小坂直敏 (東京電機大)

副会長：高岡明 (玉川大), 古川 聖 (東京芸大)

事務局：Renick Bell (東京電機大)

会計：森威功 (東京芸大)

広報 (Web)：青木幸文 (東京電機大)

広報 (イベント)：塩田和明 (尚美学園大)

会報：安藤大地 (首都大)

運営委員

国内 今井慎太郎 (国立音大), 深山 寛 (東京大),

小林良穂 (慶応大), Cathy Cox (玉川大),

中村滋延 (九州大), 水野みか子 (名古屋市立大)

国外 石井紘美 (City University, UK),

寺澤洋子 (Palo Alto, U.S.A.),

西野裕樹 (National University of Singapore),

Mara Helmuth (University of Cincinnati, U.S.A.),

Michael Chinen (Dartmouth College, U.S.A.),

Karen Wissel (Growth in Motion, Inc., U.S.A.),

Mark Battier (Sorbonne, France)

■電子ジャーナルへの投稿を歓迎します

原稿は原稿執筆要領に沿って書いていただき、編集委員まで送付して下さい。また、詳細については編集委員までお問い合わせ下さい。

編集委員：安藤大地 dandou[at]sd.tmu.ac.jp

原稿は以下のカテゴリに分類されます。

- **原著論文** 研究論文。査読を経て採録されたものが掲載されます。
- **研究報告** 研究の予稿。査読はなし。通常の学会の研究会の予稿に相当。
- **会議報告** 国際会議等の参加報告。
- **解説** 既に知られている重要な技術、概念、研究動向を読者にわかりやすく伝える記事。
- **連載** 何回か継続して綴られる原稿。解説や報告などさまざまな区分が個々の原稿にはあるが、全体を連載として区分する。
- **インタビュー** 作曲家、音楽家へのインタビュー。
- **書評** 読者へ紹介したい単行本の感想、評論など。
- **報告** 自身のあるいは研究室の活動報告など。
- **作品解説** 自作品の哲学、用いているシステム紹介、音楽理論などを作品の中で特筆すべき内容を解説する。プログラムノートを発展させ、より学術的にしたもの。

このほかのカテゴリも必要に応じ、作成したいと考えています。上記に当てはまらないものは編集委員にご相談下さい。

今後のイベント告知

■日本の電子音楽

日時：2009 年 7 月 11 日 (土)

会場：草月ホール 〒107-8505 東京都港区赤坂 7-2-21

企画名：第 25 回〈東京の夏〉音楽祭 2009 「日本の声・日本の音」 〈日本の電子音楽〉

料金：プログラム A-1,500 円, プログラム B-1,500 円, プログラム C-3,000 円, 一日通し券 (各回入替有り)-5,000 円, 全席自由 (13:30 よりプログラムごとの入場整理券を配布)

<http://www.arion-edo.org/tsf/2009/program/m02/>

プログラム A(14:30~)

テープ作品集：「電子音楽の夜明け」

◎選曲：坂本龍一

黛 敏郎：ミュージック・コンクレートのための作品「X.Y.Z」(1953)

黛 敏郎：素数の比系列による正弦波の音楽 (1955)

諸井誠／黛敏郎：七のヴァリエーション (1956)

武満 徹：テープのための「水の曲」(1960)

一柳 慧：パラレル・ミュージック (1962)

高橋悠治：フォノジェヌ (1962)

高橋悠治：『時間』(真鍋博アニメーション) (1963) ※映像上演

武満 徹：映画『怪談』(小林正樹監督) (1965) より

音響ディレクション：有馬純寿

プログラム B(16:45~)

テープ作品集：「大阪万博へ」

◎選曲：坂本龍一

柴田南雄：電子音のためのインプロヴィゼーション (1968)

三善 晃：トランジット (1969)

一柳 慧：東京 1969 (1969)

湯浅譲二：ホワイトノイズによる「アイコン」(1967)

松平頼暁：テープのための「アッセンブリッジス」(1968)

ヴォイセス・カミング (1969) より 湯浅譲二

湯浅譲二：スペース・プロジェクションのための音楽 (1970)

坂本龍一：個展 (1978)

音響ディレクション：有馬純寿

プログラム C(19:00~)

佐藤聰明 作品集 ～テープ、デジタル・ディレイと 2 台ピアノのための～

《エメラルド・タブレット》(1978) (テープ作品)

《リタニア》(1973) (2 台ピアノ, デジタル・ディレイ)

《太陽讃歌》(1973) (2 台ピアノ, デジタル・ディレイ)

《宇宙 (そら) は光に満ちている》(1979) (ソプラノ, ピアノ, パーカッション)

演奏：小坂圭太 (ピアノ), 稲垣 聡 (ピアノ), 佐藤聰明 (デジタル・ディレイ), 野々下由香里 (ソプラノ), 山口恭範 (パーカッション), 有馬純寿 (音響)

有馬純寿関連のその他のコンサート情報は

<http://40nen.jp/news.html#arima> をご覧ください。

公演記録

■「音楽×舞踊」コラボレーション入選作品

本会会員の Karen Wissel による舞踊公演が同じく本会会員の 高岡明と 齋藤啓之の曲をもとに下記の要領で行われました。

平成 21 年 6 月 6 日 (土) 16:00-16:15

会場：米国シンシナティ現代美術館 (Contemporary Arts Center, Cincinnati)

振り付け、ダンス：Karen Wissel (オハイオ州立大学)

作曲：高岡 明 (玉川大学)

作曲：齋藤啓之

主催：シンシナティ現代美術館

企画：Alex Bayer and the Kronauts

イベントの詳細につきましては、今号の p.17-21 をご覧ください。

編集後記

先端芸術音楽創作学会の初の会報となります。原稿も多く集まり揚々たる船出となっているのではないのでしょうか。コンピュータ音楽の学会は、様々な分野の専門家の寄り合い所帯になることが多く、当学会もその例に漏れません。音楽を題材としている以上、学問的なものだけではなく、文化的思想的にも様々な方が集まります。この会報の編集をしているだけでも、様々な文化背景があることがわかりました。このことは学会としての強みでもあります。小坂会長の挨拶にありました通り、今後も皆様のお力添えをいただきつつ学会として成長いければと思います。

当会報の編集は、今後の美しいフォントを用いた L^AT_EX による完全自動組版化を視野に入れ、文字コードの変換から PDF の統合まで自動化するプログラムを開発しながら行いました (次回の発行時を目処に完成予定)。今回は原稿執筆要項やスケジュール、執筆のためのテンプレートも完全には定まっておらず、著者の皆様にはご迷惑をおかけしました。次回は著者の方々へ便利なテンプレートの提供と、美しい自動組版を行うことを目標とします。(会報編集担当:安藤)